

昭和二十五年十一月二十九日提出  
質問第八五号

血液売買に関する質問主意書

右の質問主意書を提出する。

昭和二十五年十一月二十九日

提出者 横田甚太郎

衆議院議長 幣原喜重郎 殿

## 血液売買に関する質問主意書

一 東京都葛飾区奥戸町にある日本製薬奥戸工場では、人体より血液を買う商売をしているそうだが、事実か。

二 そのおり、一合の血が七〇〇円で買い取られるようになってはいるはずだが、一部看護婦と地方暴力団が協力して、血を売った人に一合につき四〇〇円しか支拂わないそうだ。このような日本人の血液が国連等に売られるときには、一合につき一、五〇〇円になっているとのことだが、右は事実であるか。事実であるとせば、政府の指示によるものか。

三 なお、血液売買についての関係法規、血液を売らねばならない必要に迫られている人々の階級層、このような事業をいつごろから始めたか、又血を売る人々が職業化していないか。血液を売った人々のその後の人体への影響等、政府は、事人命に関する問題であるから、もつと明確な答弁書を作成してほしい。右質問する。